

これはいけませんね…  
すごい邪気を感じます…。  
しっかり厄祓いをしないと…。

私に全部…  
出して下さい…ね？

エキエキ

む  
び  
っ  
ち  
っ  
♡





ん…こんなに大きくなって…ちゅっ  
ちゅぱっ、今鎮めて…っちゅ…  
差し上げますから…

…ツあ！  
どんどん…  
大きくなって…？

ちゅっちゅっ  
おっぱい  
おっぱい





ちゅぷちゅぷっ…  
…んふっ…ちゅっ  
ちゅぱ、ちゅぱ、  
っ…んんっ…

っあむっ♡  
ちゅほっ♡  
ちゅほっ♡

すごい  
熱くてえ…太い…  
えっちなお○んぽお…



っん…びちや  
…ちゅふっ…っ  
じゅふじゅふっ…  
っ…じゅふふっ

ちゅふっ♡  
ちゅふっ♡  
ちゅふっ♡  
ちゅふっ♡  
ちゅふっ♡  
ちゅふっ♡

欲しい…よお…  
こんな大きいのお…  
おっ…おまのこに…  
入れたら…

ハハ  
ハハ





ツッああんっ！  
おち○ぽみるくう…  
はあ、はあ…あん、  
お口にい…いっぱい  
出ちやってるう…

早苗さん!!  
いくっ!!



はあ、はあ…  
美味しい…貴方の  
おち〇ぽみるく…  
すごく濃くて…んっ…  
まだ…お祓いきれてえ…  
ないんじゃ…ないです  
かあ…？もっとお…  
らしてもお…ちゅぱ  
いいん…です  
よ…？

もっとお、  
もっと早苗でイッて  
欲しいのお～…  
もっとおち〇ぽみるく…  
ゴクゴクしたい…

はっ  
はっ  
はっ

はっ  
はっ  
はっ

はっ  
はっ  
はっ

はっ  
はっ  
はっ

はっ  
はっ  
はっ

早苗…さん？







ぐふッ!!  
んんっ…ゴク…  
んく…ゴクゴク  
…んふっ!

はっ!  
私ったら、お祓いする  
立場なのに…んんッ!  
でも…濃いい…こんなの  
おま○こも…我慢…  
っできないよお…

キッ!♡  
キッ!♡

早苗さんツツ!!!





らめっ…  
このニオイ…  
ムラムラして…  
たまらないiiii…

はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん

ひちゅっ

ハッハッハッ  
ハッハッハッ  
ハッハッハッ  
ハッハッハッ

はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん

はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん

はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん  
はぁん

「っあ…あのお…もう我慢出来ないんです…おま○こ…グチャグチャで…」

「早苗さん、えっちなあ…お祓いしながらこんなに濡らしてたなんて…これじゃツライでしょ？  
これ使ってもいいよ？」

「ッ！！そ、そんな…こんなえっちな…玩具じゃなくて…その…あぁっ…！」

俺はしゃべる早苗さんに構わずま○こを広げた。

くばあ…

「そんな事いってま○こ啜えたがってるみたいだけど？」

観念したのか早苗さんは恥ずかしそうにパイプを持つ俺の手を握って自分のま○こにあてがった。

ぐにゅ、にゅぷんっ…

びしょ濡れになった早苗さんのま○こはすんなりとパイプを啜えこんだ。

俺はソレをゆっくりと焦らしながら出し入れしてあげる。

ぐちゅっ…ぐちゅっ…

「ハア…ハア…」

ちゅぷっちゅぷっ…

「すごい音だねw これ出そうとするとピラピラが吸い付いてくるのがよくわかるよw」

「そんな…こと……恥ずかしい…んん…」

そう言いながらも自ら腰をクネらせてより大きな刺激を求めているのがわかる。

「ああ、ごめんね？ スイッチ入れてあげないだったね。」

ヴィー———ン！！！！！！ウィンウィンウィン！！！！！！

「っんああああ！！！！！！」

ピクピクッ！！！！

いきなり“強”はキツかったかな？ でも早苗さん気持ちよさそう。

「…ほら、早苗さん、おかわりだよ？ 厄祓いの続きをしてよ…」



